

患者さんが知りたい、糖尿病からわかる 歯周病のメカニズム

■座長

鴨井 久一氏（日本歯科大学名誉教授・歯周病学会元理事長）

■シンポジスト

川合 明彦氏（せんぼ東京高輪病院心臓血管外科部長・東京女子医科大学元准教授）

佐藤 聡氏（日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座教授）

ここ数年の歯周病研究は歯周病関連菌が心臓血管系や呼吸器系の全身疾患と深い関わりがあることを明らかにし、さまざまな疾患あるいはトラブルと歯周病が関係することを示すデータが報告されている。

なかには疫学的調査の結果のみに基づき、歯周病原菌細菌と全身の疾患との実際の因果関係が必ずしも見出されない報告もあるにせよ、今まで以上に積極的に歯周病関連菌の排除を念頭に置いた歯周病治療が強く求められている。

本講演では、この歯周病の特殊性を念頭に置き、医科歯科の立場から全身疾患との因果関係を探っていきたい。

患者さんが知りたい、 糖尿病からわかる歯周病のメカニズム

日本歯科大学名誉教授・歯周病学会元理事長

鴨井 久一氏

■プロフィール■

- 1979年 日本歯科大学教授（医学博士、歯学博士）
- 1995年 日本歯科大学歯学部付属病院長（2001年まで）
- 2001年 日本歯科大学歯学部大学院院長（2005年まで）
- 2003年 NPO日本歯周病学会理事長（歯周病専門医制の確立、厚生省認可、2005年まで）
- 2005年 日本歯科大学名誉教授



厚生労働省の2007年度糖尿病実態調査報告から「糖尿病が強く疑われる人」が820万人、「糖尿病の可能性を否定できない人」が1050万人と言われ、成人の5～6人に1人が糖尿病に罹患していると言われている。糖尿病は、周知のごとく、膵臓のランゲルハンス島β細胞から分泌するインスリンの作用不足が主要原因となるI型糖尿病とインスリンの分泌低下や抵抗性をきたす複数遺伝子による過食（高脂肪）、運動不足、肥満、環境要因（ストレスなど）、加齢などによるII型糖尿病がある。その他の特定機序、疾患によるもの、妊娠性糖尿病などがあるが、大部分の疾患はII型糖尿病である。糖尿病は、合併症として、網膜症、腎症、神経障害、大血管障害、小血管障害、6番目に歯周病が挙げられている。症状は、倦怠感、口渇（口臭）、多飲、手足の痺れ、体重減少などが言われている。糖尿病は慢性の高血糖と糖代謝、脂肪代謝、タンパク代謝の障害で生じるもので、高血糖状態が持続するとグリコヘモグロビンが増加しマクロファージを刺激し、サイトカインの産生が増加する。歯周組織のコラーゲン線維の合成阻害、歯根膜繊維が細胞の機能異常、好中球の機能不全、最終糖化産物（AGE）の組織破壊、微小循環器障害アディポサイトカインなどが歯周病に影響を与えている。

歯周病は歯と歯肉の間に歯周病原細菌が侵入し、微細血管を通してCRP値の上昇、慢性炎症性サイトカインIL-β、IL-6、TNF-αなどが歯周組織を破壊する。また、歯周病は生活習慣病ともいわれ、肥満や喫煙などが大きく関与し、免疫機能の低下により、歯槽骨の吸収（LANKL）が通常の歯周炎の患者より大きくみられる。糖尿病で歯周病が疑われる場合、歯周病の検査が必要である。細菌検査が唾液などから容易に検出できる。そして治療計画の策定、治療へと進める。糖尿病に罹患していると易感染性のため、SRPの処置の際、抗菌剤の投与が必要な場合もある。外科的侵襲は避ける意味で、レーザーの使用が行われている。唾液の流出の減少も口腔ケアの観点から口腔周囲筋のマッサージや口腔清掃による口臭除去なども

日常生活の中で大切な点である。

糖尿病、歯周病で一番重要なことは、予後管理である。メンテナンス、SPTと言われるもので、3カ月、6カ月に一回、定期的にリコールチェックを受けることである。医師の内科的指導、歯科医師、歯科衛生士の口腔内指導が歯周組織の保全と維持に必要なことである。

〈パネリストプロフィール〉

●川合 明彦（かわい あきひこ）氏

せんば東京高輪病院 管理部長 心臓血管外科部長 循環器センター長



1983年北海道大学医学部卒業

同年 東京女子医科大学 循環器外科入局

1991年 米国 ピッツバーグ大学 胸部外科リサーチフェロー

1992年 米国 医師免許取得

同年 ピッツバーグ大学 クリニカルフェロー

1994年 同 アシスタント プロフェッサー

この間 心臓移植、肺移植を200例以上執刀

1997年 帰国 東京女子医科大学 心臓血管外科 講師

2001年 東京女子医大での 心臓移植第1例を執刀

2005年 同 助教授

2007年 同 准教授

2009年 せんば東京高輪病院 心臓血管外科 部長

学会

外科学会 指導医 胸部外科学会 指導医 心臓血管外科学会 専門医

●佐藤 聡（さとう そう）氏

1987年 日本歯科大学 新潟歯学部 卒業

1991年 日本歯科大学大学院 歯学研究科博士課程 修了

1991年 日本歯科大学 歯学部 歯周病学教室 助手

1993年 日本歯科大学 歯学部 歯周病学教室 講師

2003年 日本歯科大学 歯学部 歯周病学講座 助教授

2005年 日本歯科大学 新潟生命歯学部 歯周病学講座 教授

2011年 日本歯科大学 新潟生命歯学部 先端研究センター 再生医療学教授併任

現在に至る

